



水辺と緑のまちづくり



江戸時代に物流の要所として発展した江東区。埋め立てで開発された土地であるため、水害や地盤沈下は切り離せない問題でしたが、近年は水辺環境の整備により水害に強い都市となりました。平成24年には「江東区C-I-G（CITY-IN-THE GREEN）ビジョン」を策定し、区の将来像「みんなでつくる伝統、未来 水彩都市・江東」の実現を目指しています。

◆埋め立てにより開発された水の都

水運のまちとして発展

江東区は葦の茂る低湿地がほとんど

横川、横十間川等も開削され、隅田川に新大橋、永代橋が架けられ、大いに発展しました。

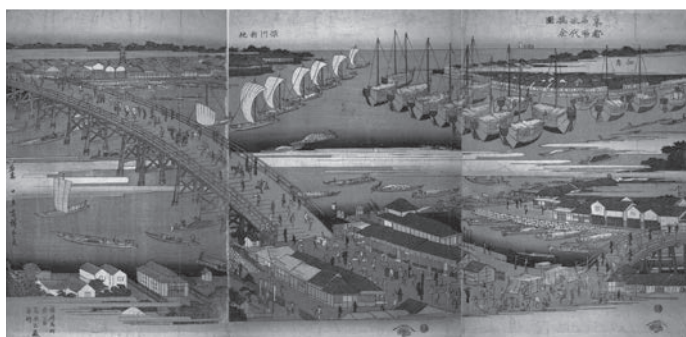
水辺環境の整備により 水害から守る！

江東区には、多くの河川が縦横に流

れています。これらの河川は人々の暮らしに密着し、生活に潤いと安らぎを与えてきましたが、度重なる水害が大きな被害をもたらしました。

昭和20年代から30年代の江東地区は特に水害に弱く、台風などの天災の度に大きな被害を受けていました。

江戸初期には行徳の塩を運ぶために小名木川が開削され、江戸中期には物資流通の要路となり、舟の関所（船番所）も設けられます。さらに堅川、大



東都名所永代橋全図 歌川広重（国立国会図書館蔵）



昭和33（1958）年に発生した狩野川台風（台風第22号）による水害の様子

国及び東京都は江東三角地帯を水害から守るため、台風などで発生する高潮にも耐えられる堤防と水門をめぐらせました。高潮のときには水門を閉鎖し、堤防内側への浸水を防ぎます。さらに堤防内に降った雨により水位が上昇するのを抑えるため、堤防内に溜まった水を堤防外へ排出する排水機場を設置し、高潮から守っています。

工業用水や天然ガスを地下から汲み上げることで起こる地盤沈下も水害の被害をより大きくしていました。これを防止するため、法令による地下水の揚水規制、天然ガスの採取禁止が実施されました。ピーク時は江東区内で年間10cm程度の地盤沈下が発生していましたが、規制の効果もあり、現在は地盤沈下が食い止められています。

◆ 水害に強く水辺に親しむ水彩都市

都市型水害に立ち向かう 基盤整備

近年、ヒートアイランド現象によると考えられる局地的集中豪雨が頻繁に発生し、都市型水害が深刻な問題となっています。東京都では、雨を速やかに河川や東京湾に排出するための雨水幹線やポンプ所、雨を一時的に貯留する調整池などの下水道施設の整備を進めています。

江東区においても下水道施設への負担軽減のため、公共施設や民間建物における雨水の貯留・浸透施設の設置指導を行うほか、下水道枝線の再構築を行うなど、浸水被害の早期軽減を図るため、都と連携した流域対策に取り組んでいます。



春海橋公園
高潮などの被害を軽減する防潮堤としての役割を持つ

水辺を活かした散策路と 親水公園

このように、度重なる水害に悩まされ防災力の向上に努めてきた江東区ですが、同時に、南に東京湾、西に隅田川、東に荒川、まちなかを縦横に走る河川や運河という恵まれた水辺を活かし、水とみどりに親しめる散策路や親水公園などの整備にも力を入れてきました。

散策路は、内部河川沿いの「水辺の散歩道」と運河沿いの「潮風の散歩道」があり、区内を縦横にネットワークするように走っています。また、水辺を活かした親水公園や大きな樹木が育った大規模な公園、「材木のまち」として栄えた文化を伝える公園等、特色ある公園にも恵まれ、1人当たりの公園面積は23区の中で3番目に高い水準を誇ります。

親水公園は、舟運などの使命を終えた仙台堀川や横十間川など内部河川の一部を整備した公園で、現在7カ所あります。

江東区 親水公園ガイド

仙台堀川公園

「区民の森」をテーマに整備。面積10.39ha、長さ3700mに及ぶ都内最大級の親水公園で、ふれあいの森、果実の森、科学の森、親子の森など特色ある7つの森が続き、春には桜、夏から秋には果実と紅葉など、四季折々に楽しめます。

横十間川親水公園

「区民の水辺」をテーマに整備。平住橋から小名木川へ続く長さ約1900mの親水公園。横十間川の広い水面を生かした貸しポート場や水上アスレチック、野鳥の島、花菖蒲園や田んぼがあり、田植え体験も。木造和船の櫓漕ぎを体験できます。

竪川河川敷公園 (竪川親水公園)

「区民の広場」をテーマに整備。首都高速道路7号線高架下の公園で、カーン・カヤック場、フットサル場、フィットネス広場、パターゴルフ場などを備えています。水上アスレチックもあります。

福富川公園

「木場の香り」をテーマに整備。イカダや橋・遊具などに木を取り入れた、木の香りあふれる公園で、さまざまな樹種の木々が茂る園内には、鯉や亀が泳ぐ池や木製水門の模型もあります。

古石場川親水公園

「水辺の香り」をテーマに整備。隣接する牡丹町にちなんで開かれた牡丹園のほか、梅雨時にはアジサイの花も楽しめます。園内にはジャブジャブ池やかつての古石場の面影を残すさまざまな自然石を配置した広場が続きます。

木場親水公園

「木場の風景」をテーマに整備。江戸情緒を感じさせる木場の面影を再現した公園です。絵巻のモニュメント、石積みの堀割、木製の太鼓橋、岸辺の灯籠などが置かれ、柳の木の下には復元された伝馬船が停められています。

荒川・砂町水辺公園

「太陽の広場」をテーマに整備。荒川下流の河川敷を利用し、雄大な川の流れを望む開放的な公園。草の広場、花壇、区内最大のピオトープ、運動広場、テニスコートなどがあります。

◆みどりの中の都市「CITY IN THE GREEN」の実現

「江東区みどりの基本計画」を策定

江東区では平成19（2007）年に

当初計画である「江東区みどりと自然の基本計画」を策定し、その後、長期計画において「CITY IN THE GREEN」の考え方が位置付けられたことを受け、目指すべき都市像や取

り組みを明らかにした基本方針として「江東区CIGビジョン」を策定し、緑化施策を進めてきました。

しかし、みどりを取り巻く社会情勢は大きく変化し、課題も変化しています。そこで、当初計画の基本的な考え方を継承しつつ、これからの時代を見据えた新たな取り組みが必要になったため、改定したのが「江東区みどりの

基本計画」です。本計画には、みどりの中の都市（CITY IN THE GREEN）の実現に向けた4つの新たなCIGビジョン（基本方針）が定められています。

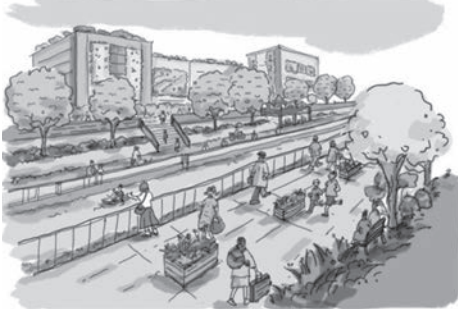
みどりの中の都市（CITY IN THE GREEN）とは、都市の中にみどりがあるのではなく、みどりの中に都市があることをイメージしたま

ちづくりを言います。河川や道路の緑

化、公園や緑地の整備など公共施設の緑化を進める一方で、区民や民間事業者による「民間緑化」を後押しし、区内のさまざまな主体と連携しながら積極的な緑化に取り組んでいます。

新たなCIGビジョン（基本方針）と取り組み

ビジョン1



みどりを水彩都市・江東の魅力づくりに活かします。

- ・水辺を活かしたみどりのネットワークづくり
- ・みどりを活かしたまちなみづくり
- ・みどりを活かしたにぎわいづくり

ビジョン2



みどりをより柔軟に使えるようにします。

- ・みんなが楽しく使える公園づくり
- ・みどりを使ったコミュニティづくり

ビジョン3



みどりを安全と生命を支えるために充実させます。

- ・みどりが支える安全・安心なまちづくり
- ・みどりが支える快適なまちづくり

ビジョン4



みどりをみんなで守り育て伝えます。

- ・みんなで守り育てるみどりのまちづくり
- ・みどりの大切さを伝える仕組みづくり

2020花とみどりの おもてなしガーデニング講座

江東区では、平成30年度から、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、「東京2020に向けた花と緑のおもてなしガーデニング講座」を実施してきました。これは、区民との協働により、競技会場に近い豊洲六丁目第二公園の花壇を花とみどりで彩り、東京2020大会開催への気運醸成を図るとともに、この講座をきっかけにして地域での緑化活動やコミュニティ形成に向けた活動を始めてもらうというものです。

講座では、講師によるガーデンデザインや花壇の手入れ方法などの基本レクチャーを受けたあと、公園の花壇に花苗を植え付ける実習を行いました。受講生が作り上げた花壇は「おもてなしガーデン」と名づけられ、現在もコミュニティガーデンの1つとして、花の少なかった公園を明るく彩っています。また、同じ公園内でガーデニングイベントも行い、みんなで寄せ植えのプランターを作りました。



おもてなしガーデニング講座の様子

ベランダガーデニング講座 などを開催

大規模な緑地の確保が難しく、80%を超える世帯が共同住宅に住む江東区では、マンション等でのベランダ緑化を推奨しています。ベランダで花や野菜、樹木を育てる楽しみを広げること、みどり豊かな美しいまちづくりを進めていくという考えです。区民に積極的に取り組んでもらうため、ベランダでみどりを育てるコツを学びガーデニング仲間もつくる「ベランダガーデニング講座」、マンション内でみどりを通したコミュニティづくりのきっかけ

けとなる居住者を対象にした「ベランダ緑化講習会」などを開催しており、毎回盛況です。



ベランダガーデニング講座の様子

区民まつりなどのイベントではベランダで楽しめる寄せ植え講座を行い、CITY IN THE GREENを広めています。こうした講座を通じて、マンションのベランダ緑化に取り組んでいる区民がたくさんいます。

そのほか、ボランティアが中心となつて花づくりなどを楽しみながら交流するコミュニティガーデン活動も活発に行われており、現在では60団体を超え、1400名以上の方が参加しています。江東区は花苗等の提供や、新たに活動を始めるための「コミュニティガーデン活動見学会」を実施するなど、活動を後押ししています。この

ように、区は民間の緑化活動を応援し、心豊かな歩いて楽しいみどりのまちづくりを進めています。

今後も引き続き、さまざまな緑化施策を推進し、区全体にみどりをあふれさせることで、「CITY IN THE GREEN（みどりの都市）」を実現していきます。



コミュニティガーデン活動の様子

豊かなみどりを次の世代へ

かつて洪水や高潮に怯えたまちには、豊かな水辺とみどりの風景に変わりました。過去の水害の歴史、そして「浸水から親水へ」の道のりを継承しつつ、川や海の恵みを生かしたみどりあふれるまちを、江東区の「おたから」として次の世代へ引き継いでいきます。